

風力エネルギー分野における若手及び女性活躍

JWEA 代表委員 植田 祐子
(株式会社ウインドエナジーコンサルティング)

風力エネルギーを勉強したいけれども、自分の大学には専門の先生がいない、何から勉強をすればよいのか、どこにその情報があるのか、今も昔も同じような悩みを抱えている学生は多いのではないのでしょうか。また、風力エネルギー業界への就職に興味があるけれども、就職情報サイトや情報誌を見ても、風力に関連する業界情報、企業情報は見当たらない、どこで情報が得られるのかわからないといったこともあると思います。手元に会社四季報業界地図2022年版がありますが、その表紙の写真は洋上風力発電所です。しかし、中を開いてみると、残念ながら風力業界情報は殆ど見当たりません。写真は、注目業界「脱炭素」のイメージとして使われているだけのようです。学生だけでなく、広く市民にとって、風力発電は、環境によいイメージではあっても、正しく理解できていない状況には至っていないように思われます。本号で特集「社会的受容」が組まれておりますが、まさに脱炭素が注目されている今、風力発電に関する普及啓発活動、人材育成のニーズが非常に高まっており、学会の役割も大きいと思われます。

今まで、本学会では、見学会、工作教室、出前授業などを通じて、普及啓発活動が行われてきました。私も学会主催の見学会同行や、工作教室の講師などで長年関与させて頂きました。このようなイベントに参加した多くの方が風力エネルギーに対して理解を深めて頂いたのではないかと思います。講師側としても、勉強させられる大変いい機会になりました。また、この風力エネルギーの普及啓発活動、人材育成活動については、長年ご尽力頂いた牛山先生と故長井先生を抜きに語る事ができません。私も風力の右も左も分からない学生の時分、牛山先生の研究室をお訪ねして研究のアドバイスを頂き、風力エネルギーの研究を始めることができた一人です。ウインドデーのイベントでは、いつも故長井先生が先導をしてくださいました。先生方の思いを引継ぎ、この新しい時代、新しい時代に適した普及啓発活動はどうあるべきなのかを考え直す時期が来ていると思います。

昨年、前田会長の体制の下、本学会に若手及び女性活躍推進WGが設置され、活動がスタートしました。WGのリーダーを拝命し、風力エネルギー利用シンポジウムでは、昨年に引き続き、今年もこの話題について講演をさせて頂くことになりました。まだ成果をご報告できる段階ではありませんが、皆様にご協力を頂きながら、少しずつ活動を前に進めていきたいと思っております。第一弾の案としては、大

学生や若手社会人を対象としたキャリア支援のプログラムを考えています。ちょうど冬から春にかけては4月からの本格的な就職活動の前の期間にあたり、業界研究をする時期と重なりますので、風力のワークショップや座談会等を開催し、風力エネルギー分野でのキャリアパスの情報を発信できるとよいのではないかと考えています。

女性活躍推進については、若手支援と比べると、一筋縄ではいかない難しい課題です。今年のシンポジウムの発表に際して、風力エネルギー分野の女性人材が少ない要因、特に理工系人材、管理職人材について、フェーズに応じて考えました。OECDが定期的に教育に関するレポートを発行していますが、今年も日本の高等教育における理工系専攻の女子の比率は、OECD加盟国の中で最低の16%となっています。一方、PISA(学習到達度調査)の日本の15歳女子生徒の科学的リテラシーは非常にいい成績となっています。したがって、理工系人材が少ないのは能力の問題ではなく、社会的要因が大きいと考えられます。

例としては高校生期における無意識のバイアスが挙げられると思います。理工系は男子がいく専攻であると考え、そもそも進学先の選択肢から外すというものです。親や周囲の人からそのような言われることもあるでしょう。また、身近に理工系の女性が少ないというのも、進路を考える上で影響を与えていると思います。大学進学後は、同性の同級生が少なく、身近に相談する相手がいない等の課題もありますが、就職に関しては、統計上、大きな男女差は生まれていないと考えられます。社会人になった時点では、人数の差はあるものの、能力差はない状況です。しかし、年齢を経るにつれて、徐々に男女の能力差が出てきて、人数差、賃金差が広がっていきます。これは、女性自身が自分の能力を過小評価する、結婚・出産・育児を考えて、キャリアアップを控える、キャリアそのものを諦める、女性には難しい業務を担当させない傾向があり、男性社員との経験の差、ひいては能力の差が生まれるといった要因が考えられると思います。女性を優先的に支援することを逆差別であるという向きもありますが、現在の状況や要因を考えると、具体的で踏み込んだ対策が必要と考えます。今の若い世代の10年後、20年後、男女問わず、よりよい学会、魅力的な風力エネルギー業界とするため、今後もこの議論を深めて、実行に移していきたいと思っております。